

事例 4 : 15名の企業でもここまで出来る！～相互代替生産で災害を乗り切る～

株式会社ナンゴー : 私たちは向上する！ We improve！！

■ 会社概要

企業名：株式会社ナンゴー	資本金：1,000万円
所在地：京都府宇治市	業種：精密部品の設計、製造
従業員数：15名	保険：火災保険（機械、建物）

◇なぜ防災・減災に力を入れるようになったのか

社長の前職は神戸の金融機関。阪神大震災前年に転勤となったため、自身の被災は免れたものの、永年住み慣れた神戸の被災は心に大きな影を落とした。その後も2011年東日本大震災、2012年京都府南部地域豪雨災害などを多くの災害を目の当たりにし、日本では災害リスクから逃れられないと痛感した。

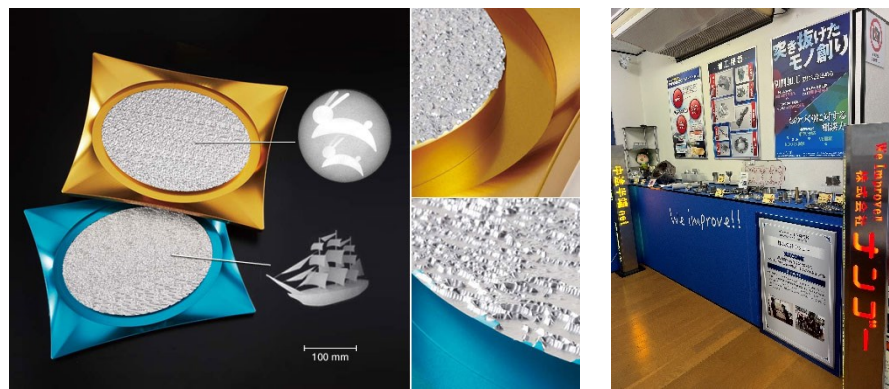
◇どのような備えをしているか

- ・広島のパートナー企業と被災時の相互代替生産の取り決めを行っており、いざという時に備えている。地理的にも京都から遠く離れた広島のため、同時に被災するリスクを軽減できる。

- ・自社オリジナルの受発注システムをクラウド化。図面などの秘匿性の高い重要情報は取ってクラウド化せず、別途バックアップを取っている。

- ・飲料の自動販売機ベンダーから飲料水（ペットボトル）の無償提供を受けており、定期的に交換してもらえる。非常食（3日分）と飲料水、マスク、消毒液は2か所に保存しており、非常時に社員が拠点に出来るようにしてある。

- ・平時の訓練にも力を入れており、会社に隣接する企業と合同でAED訓練を実施した。火災訓練は、毎回想定出火場所を変えて実施しており、消防署に来てもらって講習を受け、消火器の使用や点呼、避難場所への避難を行うなど実践的な内容となっている。



画像左：ナンゴー彫り（特許取得）

画像右：株式会社ナンゴーのショールーム

◇パートナー企業との出会いは？

- ・パートナー企業は、同社社員が以前勤めていた会社の取引先。ISO取得のためのアドバイスをもらうなど情報交換を続けていくうちに、お互いに120%信頼できる関係となり、2021年8月には被災時の相互代替生産を行うことを約束した。同社が持ち前の向上心でISOにチャレンジしたことにより、より縁が深まる形となった。

- ・パートナー企業には自社の重要情報を預けることになるので、自社と同等の技術力があるか、誠実な企業かなどを見極め、信頼のおける企業を選ぶことが大切。

◇災害時以外で、事前の備えが役に立ったことはあるか

- ・緊急連絡先や避難場所等を記載したポケットマニュアルを携帯。被災時以外にも活用しており、同社H Pのトラブル時にもすぐに緊急連絡先を確認することができた。

- ・15名と小規模のため、安否確認にはLINEグループを利用。「事務員のみ」「全社員」の2つのグループを使い分け、発信者を社長と工場長に限定することで混乱しないようにしている。災害時だけでなく、緊急トラブルや大雪などの際にも活用している。